

審査結果	会社名	拠点・部門	企画タイトル	実施概要	実施にあたっての条件
通過	大東建託 パートナーズ	広島営業所	営業所業務で生まれる ”3つの廃棄物” 循環利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の循環利用により、空家削減、街と建物の景観向上、処分費用削減などを旨す</li> <li>循環利用①建て替えアパートに残る住宅設備→営繕繕工事で3年前に設置されたばかりの洗面台ミラーや洗浄付温水便座などを、築古長期空家に設置</li> <li>循環利用②建て替えアパートの植栽→植栽が枯れたアパートの土壌を、SDGsアワード2022で生成した「腐葉土」で再生。その後、解体物件の植栽を植え替え</li> <li>循環利用③塗装工事時に余った塗料→自治体と交渉の上、駐輪場塗装や分電盤塗装で余った塗料を使い、ガードレール塗装を実施</li> </ul>	<p><b>以下、サステナビリティ推進会議意見に配慮し実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設備・植栽の譲渡・再利用について 以下①②が大きな課題 ① 設備譲渡に伴う双方のオーナー様への承諾取得 フローの明確化 ② 設備譲渡・再利用に関わるリスクの洗い出しと対応・契約に関する法律相談の実施 →実施前に①②のサステナビリティ推進会議への報告を必須とする ※ オーナー様同士の「マッチング」を行う、同オーナー様物件への再利用なども視野に入れた検討を</li> <li>ガードレール塗装 施工基準の確認等、自治体と十分な協議の上で実施</li> <li>運用について エリア拡大展開することを念頭に置いた実施・検討を</li> </ul>
通過	大東建託 パートナーズ	鹿児島営業所	雨水を利用した サステナブルな アパート管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>アパートに貯水タンクを設置</li> <li>建物清掃時や植栽の水やりなど建物の維持管理に利用</li> </ul>	<p><b>以下、サステナビリティ推進会議意見に配慮し実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下①②が大きな課題 ① 貯水した雨水の管理 ② 貯水した雨水の使用に伴う衛生面の管理 →他社事例や行政の意見を参考に①②の管理方法を検討し、サステナビリティ推進会議への報告を必須とする</li> <li>設置やメンテナンスコストと行政からの助成金、節約できる水道料金など、可能な限り定量的な収支面でのメリットを明確に提示してほしい</li> <li>雨水タンクの見た目、設置場所など、多少のコストがかかっても景観に配慮すること</li> </ul>
条件付き通過	大東 コーポレート サービス	RPA推進事業部	障害者のIT知識習得 ニーズに対応した 実践能力習得訓練の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、未就業の障がい者向けに実施しているRPA開発プログラミング講座を、他社で就職している、スキルアップを目指す障がい者向けにも開催(未就業の障がい者に向けた委託訓練は、すでに事業化済み)</li> <li>障がい者がITに関する知識の習熟及び実務に基づいた課題に取り組む機会を提供</li> <li>施策をきっかけに、障がい者への学ぶ機会の提供と当社の障がい者の雇用促進を図る</li> </ul>	<p><b>広報部伴走のもと、実施対象者を再検討</b> <b>活動開始前にサステナビリティ推進会議への報告を必須とする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他社就業者を対象としていることに違和感。特に人材獲得を目標としており、当社さえよければ良い活動と思われないか懸念</li> <li>障がい者以外の就労困難者も多く存在する中で、なぜ課題感の薄い「すでに就職している障がい者」を対象とするのか</li> </ul>
再検討	大東建託 パートナーズ	鹿児島営業所	若年層を対象とした 職場体験会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の小中学生を対象とし、大東建託グループがどのような会社か説明する「職場体験会」を開催</li> <li>将来的な人材確保や、多世代に対する大東建託グループのPR・周知を目指す</li> </ul>	<p><b>広報部伴走のもと施策再検討</b> <b>以下、サステナビリティ推進会議要望</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就業人口が断続的に減る中、人材確保は企業にとって明確な課題。本社主導ではない、現場主導の取り組みは応援したい</li> <li>一方、小中学生を対象とした当社グループの説明会が、地域課題「若者の人口流出抑制」および当社メリット「人材の確保」の直接的解決策であるとは評価しにくい</li> <li>広報部伴走のもと、当社と地域のメリット設定再検討、および、単純な会社説明会ではない教育施策の検討を期待</li> </ul>

審査結果	会社名	拠点・部門	企画タイトル	実施概要	実施にあたっての条件
再検討	大東建託 パートナーズ	鹿児島営業所	オーナー様・入居者様と地元スポーツチームとの交流会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元で活動するスポーツ選手(プロ・アマ問わず)の協力を仰ぎ、当社グループのオーナー様・入居者様だけが参加できる<b>スポーツ交流会を開催</b></li> <li>協働チームのスポーツを、協働チーム、入居者様、オーナー様、当社従業員で行い、地元チームのファンになるきっかけと、地元スポーツチームの活性化を目指す</li> <li>当社ステークホルダー特典とすることで、<b>オーナー様とのグリップ強化や入居率のアップにつなげる</b></li> </ul>	<b>広報部伴走のもと施策再検討</b> <b>以下、サステナビリティ推進会議要望</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元スポーツチームが運営面で苦戦していることは事実。貢献の余地はあると考えるが、<b>対象者が当社ステークホルダーのみと狭いことから、地域活性化やチームへの持続的支援につながるとは言えない</b></li> <li>「施策による地域課題への貢献度」「施策により当社グループが得られるメリット」それぞれの関係性に整合性が感じられないため、実施する労力・費用と社会貢献性・事業貢献性とのバランスが合っていないように感じる。<b>施策によって得られるメリットや成果の再整理・再検討が必要</b></li> </ul>
再検討	大東建託	沖縄支店	グリーンベルト植栽活動への参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社工事現場に設置の<b>自動販売機における売り上げの一部をNPO法人おきなわグリーンネットワーク寄付し、「グリーンベルト植栽」による赤土等流出防止対策活動への参画</b></li> <li>それにより、<b>沖縄の海の保全と農地の土壌保全の推進への貢献</b></li> <li><b>工事現場の仮囲いに本取り組み広く掲示し、企業イメージアップを図る</b></li> </ul>	<b>広報部伴走のもと施策再検討</b> <b>以下、サステナビリティ推進会議要望</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題の設定自体は、地域特性に応じたものでとても良い。ただし現状の企画は、社会貢献活動(寄付による間接的な支援)にとどまるため、SDGsアワード活動の趣旨(事業を通じた社会貢献)には合わない</li> <li>広報部伴走のもと、<b>設定した地域課題に対して、当社グループが直接的にできる貢献活動は何か、実施する事によって当社グループが得られるメリットは何かを含め再考いただきたい</b></li> </ul>
再検討	大東建託	熊谷支店	使用済み使い捨てカイロで世界の海をきれいに	<ul style="list-style-type: none"> <li>市役所など公共施設へ<b>使用済みカイロ回収BOXの設置協力依頼</b>を行い、多くの</li> <li>自治体で燃えるごみとして廃棄されている<b>使用済みカイロをアップサイクル</b></li> <li>集めたカイロをGoGreenGroupに寄付 → GoGreenCube(水質を改善する資源)として有効に活用して頂く</li> <li>市役所を訪れる市民の方へ当社に対するイメージアップを目指す</li> </ul>	<b>広報部伴走のもと施策再検討</b> <b>以下、サステナビリティ推進会議要望</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>カイロは、当社グループの事業との関連性も低く、またカイロを集め寄付することは、社会貢献活動(寄付による間接的な支援)にとどまるため、SDGsアワード活動の趣旨(事業を通じた社会貢献)には合わない</li> <li>広報部伴走のもと、<b>当社グループの事業を通じて社会や環境に直接貢献できる活動、または実施することで当社のメリットになる活動を考えてほしい</b></li> </ul>
継続	大東 コーポレート サービス	サポート事業部	高齢者に学びの場を！！ ESDによるシニア世代のDX格差是正 ※2022年度SDGオブ・ザ・イヤー受賞施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者を対象にした、<b>スマホ教室を自治体等と協力して実施</b></li> <li>シニア世代のDX格差の是正を目指す</li> </ul> <p>&lt;今期の展開&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>北九州市でのスマホ教室の実施</li> <li>教室の<b>北九州市以外での展開(エリア拡大)</b></li> <li>北九州市内の<b>老人ホーム等での教室実施</b></li> </ol>	<b>以下、サステナビリティ推進会議意見に配慮し実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「すべての高齢者」ではなく、対象者をより明確化できるよう検討してほしい</li> <li>今後デジタルデバイスに慣れた高齢者が増えていくと、初歩的な講座の需要は減少する恐れがある。一方、将来にわたって技術の進歩に追従できない高齢者は一定数存在することが見込める。事業継続に向け、将来のターゲットイメージとそのボリューム感についても検証してほしい</li> <li>エリア拡大による労力・費用と事業への寄与を十分考慮の上で実施を</li> </ul>